

# 甲斐市立双葉東小学校 自己評価書

令和8年2月5日（木）作成

学校教育目標 『やさしく かしこく すこやかに』

- (1) 心豊かで 思いやりがある子ども
- (2) 自ら学び 自ら考え 行動する子ども
- (3) 心身共に健康で安全な生活をめざす子ども

学校経営目標

- (1) 生きる力の育成 ～心の教育を基軸に「知・徳・体」のバランスよい育成～
- (2) 学校・家庭・地域の連携 ～開かれた信頼される学校づくりの推進～
- (3) 教職員の資質向上 ～教師こそ最大の教育環境であることを意識した実践～

## 1 全体評価

【教職員自己評価】 全体的に肯定的な回答が非常に高く、ほとんどの領域で 90～100% の肯定率を示した。教育目標の共有、学校運営の協働体制、生徒指導体制などが十分に機能していることがわかる。一方で、ICT活用、校内研究参画、危機管理マニュアルの理解、地域人材活用などに一定のばらつきが見られ、今後の改善ポイントとして明らかになった。

【児童アンケート】 学校生活を前向きに捉え、安心して学び、友人関係も良好である。授業や学習活動への意欲も高く、思いやりや責任感などの人間性も育まれているといえる。一方で、主体的な学習態度、生活習慣の徹底、地域との関わりなどには今後の改善が求められる。

【保護者アンケート】 学校運営や授業、生活指導は概ね高く評価されており、子どもたちは安心して学校生活を送れていることがわかる。一方、家庭学習や読書習慣、将来の希望を育む取組には課題がある。今後は家庭・地域と連携し、学びと成長の支援をさらに充実させる必要がある。

## 2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

### I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況 全ての項目で肯定的な評価が 100%であったことから、学校教育目標・学校経営方針の共有が徹底され、教職員間で教育活動の方向性が明確になっているといえる。特に「3あなたの学校は、特別支援教育の体制を整え、全職員の協力の下、教育活動を行っている。」は「とてもそう思う」が 73%と高く、特別支援教育は体制・協力の面ともに高い浸透度であることがうかがえる。

改善策 今後も学校教育目標・経営方針に則った教育活動が推進されるように、職員会議などの場で職員の意思統一を図り、組織的・協働的に職務にあたるようにする。

### II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

達成状況 自己評価は、「5あなたは、他の教職員と連携して協働体制で、教育活動にあたっている。」「6あなたは、職務上報告、連絡、相談、確認を行っている。」は非常に高く、日常の連携は良好であるといえる。校務分掌の適正化（設問 9）も高評価で、組織運営は安定していると考えられる。保護者アンケートは、「学校は楽しい」（設問 1）、「学校だより、HP などから教育活動の様子がわかる」（設問 4）、「授業参観が子どもの理解につながる」（設問 6）で、肯定的回答が 9 割前後と非常に高い。学校からの情報発信や公開の機会が、保護者の安心感や信頼につながっていると考えられる。

改善策	危機管理マニュアルは避難訓練時など機会を捉えて再確認していく。校内研究は、来年度に向けて、負担の軽減・研修方法の再検討など改善を進めている。働き方改革は今年度実施した校内ワークショップを機に、全職員が改革の担い手としての意識をもち改善に取り組み始めている。日課表の見直しなど、実現したものもある。
<b>Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）</b>	
達成状況	<p>自己評価では、全ての設問で肯定的な回答が 90%を超えており、児童の学習意欲や基礎定着を意識した授業が行われ、協働学習や ICT 活用も実施されていること、教育課程は児童や地域に適した内容となっていることがわかる。</p> <p>児童アンケートから、学校・授業は楽しいと感じている児童が多く、教師の指導に対する信頼も高いことがわかる。国語・算数の授業内容については概ね理解できている。クロームブックの活用は、学習理解や意欲の向上に一定の効果を上げている。保護者アンケートでは、「8 学校は熱心に授業に取り組んでいる」は 9 割以上が肯定的。宿題に関しても「している」が 9 割を超え、学習習慣は概ね定着していると考えられる。</p>
改善策	宿題・家庭学習の指導について、やや評価の差が生じていることから、宿題の目的・量・質を学年で統一し指導のばらつきを解消していく。校内研修で ICT を家庭学習へつなげる仕組みについても研究を深めている。学年が上がるにつれて、「授業があまり楽しくない」「内容があまりわからない」「人前で発表するのが苦手」と感じる児童が一定数見られる。家庭学習時間や読書時間には個人差が大きく、学習習慣の定着に課題がある。体験的・対話的な学習、ICT を活用した視覚的支援を充実させ、「わかる・できる」実感をさらに高めていく。ペアや少人数など学習形態を工夫し、発表しやすい場を設定していく。家庭と連携し、学年に応じた家庭学習のめやすや読書習慣づくりを継続的に支援していく。
<b>Ⅳ 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）</b>	
達成状況	<p>自己評価では、全ての設問で肯定的な回答が 100%であることから、生徒指導体制は学校の大きな強みであり、学年を問わず指導の方向性が共有されているといえる。</p> <p>児童アンケートからは、学校のきまりや約束を守ろうとする意識は高く、当番活動や委員会活動にも責任をもって取り組んでいる児童が多いことがわかる。また、困ったときに相談できる先生がいると感じている児童が多く、安心して過ごせる学校環境が整っていることがわかる。保護者アンケートは、「学校は子ども達の間違った行動などに対して指導している」「相談できる先生がいる」との回答が多く、基本的な生徒指導体制は評価されている。</p>
改善策	現状維持を図るため、教職員の協力体制・情報の共有を継続していく。あいさつやルールを「守らせる」指導から、「意味を考え自ら行動する」指導へ転換していく。生活リズムについて家庭と情報共有していく。相談体制を見える化し、どの子も安心して声を上げられる環境を維持する。
<b>Ⅴ 地域との連携について</b>	
達成状況	自己評価では、設問 20（地域との安全確保）は 100%肯定であり、安全面での連携はとれている。設問 19（地域人材活用）は肯定約 80%とやや低くなっており、教育活動への地域人材活用は実感差がある。児童・保護者アンケートからは、地域行事への参加については十分とはいえ、地域との関わりを実感できる機会の充実が課題である。
改善策	地域人材のリストの整備や学年ごとの地域人材活用事例を次年度へ引き継いでいく。学校運営協議会を機に、学校だよりを地域に回覧し地域に学校の情報を発信している。地域について学習する授業の中で、地域の行事を紹介し、児童が地域を身近に感じられる機会を増やす。PTA 活動の参加が少ない家庭も多いため、参加しやすい形態や情報発信を工夫していく。

<b>VI 学校の特色に関して</b>	
達成状況	学級活動・児童会活動の指導は非常に高評価であり、心の教育の充実も「とてもそう思う」の回答が多数あることから、児童が自主的に学級活動や児童会活動に取り組み、心の教育の充実に向けた工夫や改善が行われているといえる。「少し大変でもあきらめずに取り組んでいる」と答える児童が非常に多く、粘り強さ・挑戦する姿勢が学校文化として根付いている。
改善策	引き続き心の教育の実践を蓄積していく。保護者からは「わからない」とする回答も多いため、具体的な実践例や子どもの変容を、保護者に伝える必要がある。成果だけでなく努力の過程を認める評価を継続し、小さな成功体験を積み重ね、自己肯定感を高める指導を行っていく。
<b>VII 創甲斐教育について</b>	
達成状況	読書活動、体力向上、食育の推進はいずれも肯定的な回答が 90%以上であることから、創甲斐教育について共通理解のもと、教育活動が行われていることがわかる。読書時間が「少ない」「しない」児童も多く、学年差・個人差が大きい。家庭での読書時間が短く、保護者の読書支援も十分とはいえない。
改善策	読書活動は学級・家庭との連携を強化する必要がある。学校からの読書啓発や、家庭と連動した家読の取組を強化する。図書委員会によるおすすめ本の紹介などの読書への取組を通して、日常的に本に触れる機会を増やしていく。さらに、ICT と読書を結びつけ、多様な学び方を提示していく。
<b>3 まとめ</b>	
<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員自己評価・児童アンケート・保護者アンケートとも全体的に肯定的に評価されていた。このことから、学校教育目標・学校経営目標を達成することができたのではないかと考える。</li> <li>・保護者からの学校運営や授業への信頼度は高く、基本的な生活習慣や学習への姿勢は概ね良好である。教育活動の公開や教職員の取組は、保護者から一定の評価を得ている。</li> <li>・児童の学校生活全般に対する満足度は高く、学習・生活・人間関係の多くの面で、児童の前向きな姿が確認できる。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のアンケートに表れた評価を真摯に受け止め、改善を重ね、本校の教育活動を向上させていく。保護者・地域と連携しながら、『やさしく かしこく すこやかに』となる児童を育成していくために全職員が協働して取り組んでいく。</li> <li>・わからないと回答する保護者が一定数いることから学校の取組について理解を深めるような情報発信の工夫に努めていきたい。</li> <li>・主体的な発信力、家庭学習・読書習慣、地域との関わりには引き続き改善の余地がある。「わかる・できる・認められる」経験を積み重ね、自分から学び、行動できる児童の育成を学校と家庭・地域で進めていく。</li> </ul>	